

三重県に被害を及ぼした主な地震

西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
684.11.29 (天武13)	土佐その他南海・東海・西海地方	8 ¹ / ₄	(南海トラフ沿いの巨大地震。諸国で家屋の倒壊、津波あり、死傷者多数。)
887.8.26 (仁和3)	五畿・七道	8.0～8.5	(南海トラフ沿いの巨大地震。京都で家屋倒壊多く、圧死者多数。沿岸部で津波による溺死者多数。)
1096.12.17 (永長1)	畿内・東海道	8.0～8.5	東海沖の巨大地震と考えられる。伊勢で津波被害あり。
1099.2.22 (康和1)	南海道・畿内	8.0～8.3	(南海沖の巨大地震と考えられる。興福寺、摂津天王寺などで被害。)
1361.8.3 (正平16)	畿内・土佐・阿波	8 ¹ / ₄ ～8.5	(南海トラフ沿いの巨大地震。各地で強い揺れ、津波により、死者多数。)
1498.9.20 (明応7)	東海道全般	8.2～8.4	南海トラフ沿いの巨大地震。沿岸部で津波被害。伊勢大湊で溺死者5,000人など。
1605.5.2.3 (慶長9)	(慶長地震)	7.9	南海トラフ沿いの巨大地震。沿岸部に津波来襲。
1707.10.28 (宝永3)	(宝永地震)	8.6	南海トラフ沿いの巨大地震。尾鷲付近で、死者1,070人以上、家屋流失1,510棟。その他県内で、死者57人、負傷者73人、家屋全壊2,333棟、同流失601棟。
1854.7.9 (安政1)	伊賀・伊勢・大和及び隣国(伊賀上野地震とも呼ばれる。)	7 ¹ / ₄	伊賀上野付近で死者約600人、家屋全壊2,000棟余、周辺でも被害あり。
1854.12.23 (安政1)	(安政東海地震)	8.4	(東海道沖の巨大地震。強い揺れ及び津波により、関東から近畿にかけて被害。住家全壊・焼失約30,000棟、死者2,000～3,000人。)
1891.10.28 (明治24)	(濃尾地震)	8.0	北部を中心に被害。死者1人、負傷者17人、家屋全壊625棟。
1899.3.7 (明治32)	紀伊半島南東部(紀伊大和地震とも呼ばれる。)	7.0	南部を中心に被害。木ノ本・尾鷲で死者7人、負傷者62人、家屋全壊35棟。
1944.12.7 (昭和19)	(東南海地震)	7.9	強い揺れ及び津波により被害。死者・行方不明者406人、負傷者607人、住家全壊1,826棟、同流失2,238棟。

西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
1946.12.21 (昭和21)	(南海地震)	8.0	強い揺れ及び津波により被害。死者11人、負傷者35人、住家全壊65棟、同流失23棟。
1960.5.23 (昭和35)	(チリ地震津波)	9.5 ¹	津波により被害。住家全壊2棟、同流失1棟。
2004.9.5 (平成16)	紀伊半島南東沖	7.4	負傷者8人。
2007.4.15 (平成19)	三重県中部	5.4	負傷者12人。住家一部破壊121棟。 ³
2010.2.28 (平成22)	チリ中部沿岸の地震	8.8 ¹	津波による被害。 養殖施設・水産物等256百万円 ² 。
2011.3.11 (平成23)	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震	9.0 ¹	負傷者1人、住家床上浸水2棟 ³ 。 養殖施設・水産物等3725百万円等 ² 。

この表は、地震調査研究推進本部地震調査委員会編「日本の地震活動」第2版に加筆。

1 モーメントマグニチュード(Mw)で、ほかの地震のマグニチュードと異なります。

2 農林水産省による。

3 総務省消防庁による。